

令和2年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (山口県)

【調査結果の概要】

1 作付面積

令和2年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は2万100haで、前年産に比べ400ha（2%）の減少が見込まれます。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は1万7,800haと見込まれます。

2 作柄概況

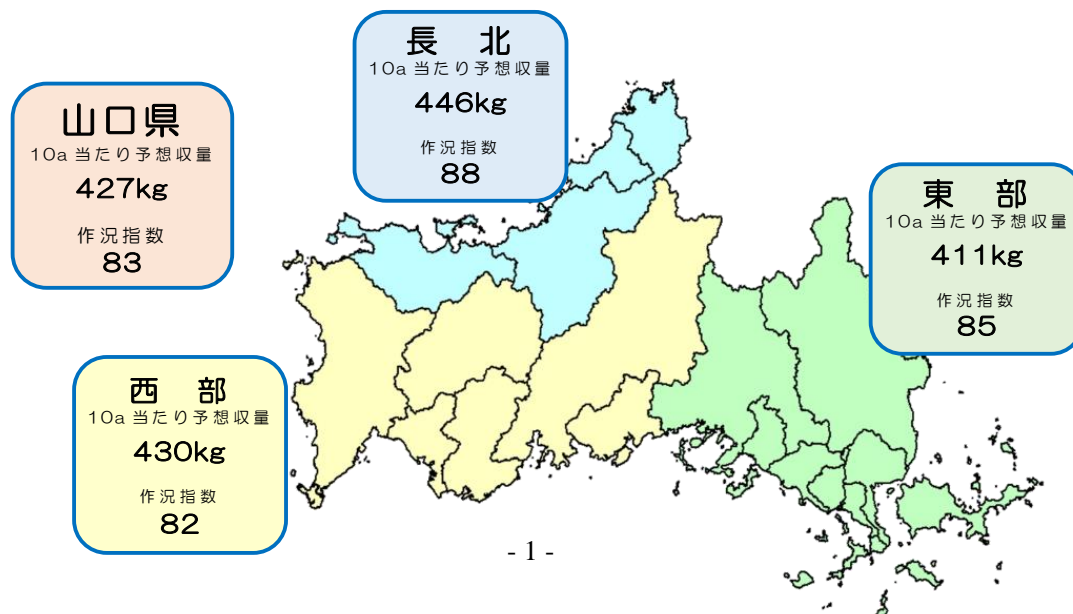
穂数は、5月から6月にかけて、おおむね高温・多照で経過したものの、7月の低温・日照不足により分けつが抑制され「やや少ない」となりました。1穂当たりもみ数は、7月が低温・日照不足で経過したものの、穂数がやや少ないことによる補償作用により「やや多い」となりました。この結果、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は「平年並み」となりました。

登熟は、トビイロウンカによる被害の発生に加え、台風第9号及び台風第10号の接近による暴風により、瀬戸内海沿岸部で潮風害が発生したこと等により「不良」と見込まれます。

以上のことから、山口県の10a当たり予想収量は427kgとなり、前年産に比べ47kgの減少が見込まれます。作柄表示地帯別では、東部が411kg（前年産に比べ45kg減少）、西部が430kg（同48kg減少）、長北が446kg（同34kg減少）と見込まれます。

また、農家等が使用しているふるい目幅（山口県1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は83（不良）と見込まれます。作柄表示地帯別では、東部が85（不良）、西部が82（不良）、長北が88（不良）と見込まれます。

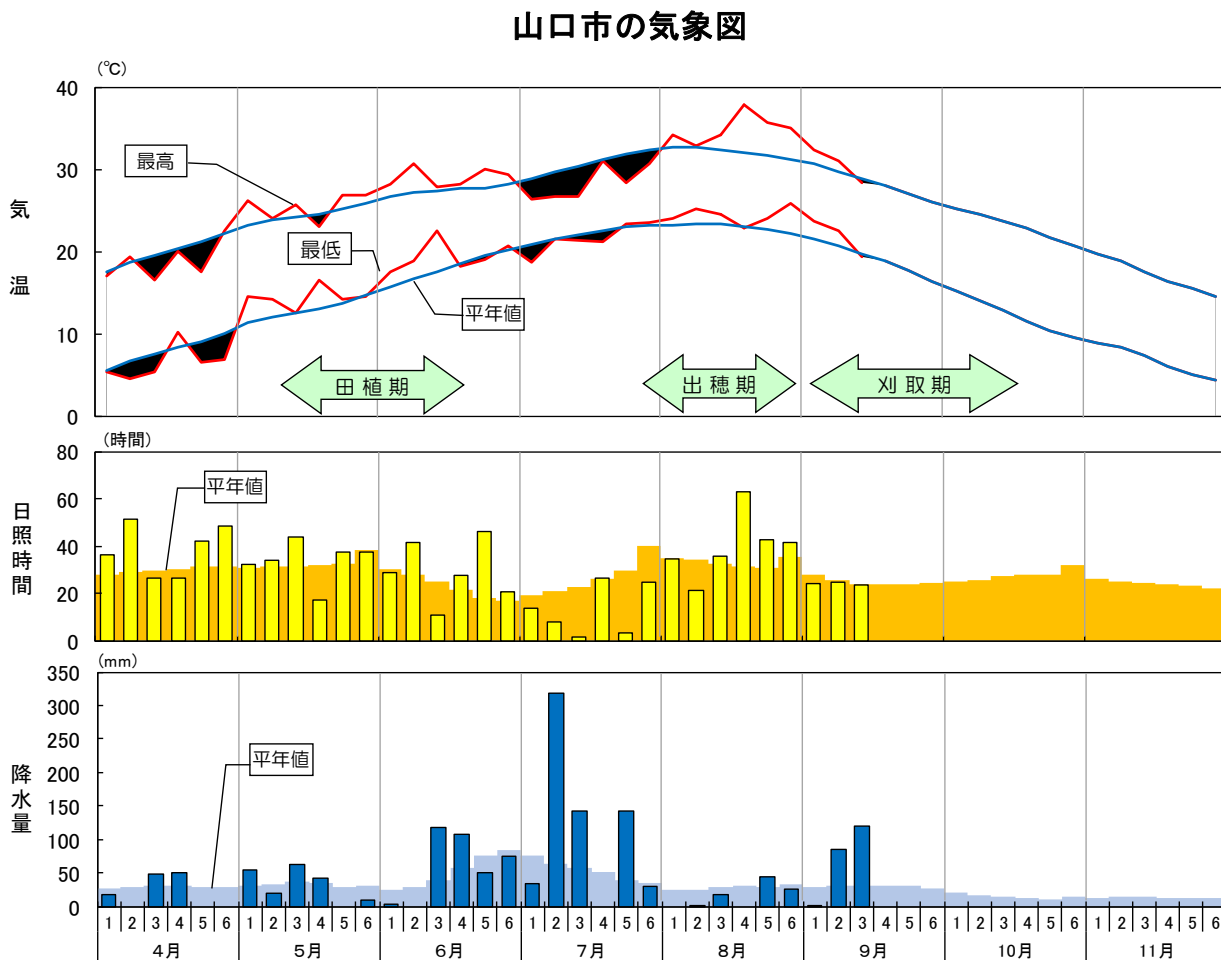
図 作柄表示地帯別10a当たり予想収量及び作況指数（9月15日現在）



3 予想収穫量（主食用）

主食用作付見込面積に 10 a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、7 万 6,000 t と見込まれます。

◎半旬別気象図



気象庁「アメダス」を基に作成

本資料は、「令和2年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況（中国地域・四国地域）」の補足資料です。統計表や調査の概要等は、同資料をご覧ください。

お問合せ先

中国四国農政局 山口県拠点 統計チーム（生産流通消費）
電話：083-922-5473 FAX：083-932-7581